



We've only just begun

前回のレポート以降、会長として多くの行事に参加しました。3月、台湾・台中市でのASPAC総会では、1万人以上の会員を擁する「キワニス大国」台湾地区のパワーを見せつけられ、彼我の差を実感したものです。しかし、その翌週、松江クラブの10周年行事で鳥取大学医学部の先生や看護師によるキワニスドールの現場での活用に関する科学的分析を含むプレゼンテーション、さらに4月の福岡クラブ40周年では、同クラブとカンボジアのプロンペンクラブの姉妹クラブ調印式、といった素晴らしい催しに接して、日本地区の活動も決して劣るものではないと思ひ直しました。

東京クラブも負けてはいません。吉田前会長と、キワニス本部に近いインディアナ州のLafayetteクラブ尾形会長のご尽力により、東京とLafayetteの姉妹クラブ提携が成立し、6月のトロント大会で調印式が行われます。東京クラブにとって初の姉妹クラブ提携であり、トロントに行かれる日本地区の皆さまは奮ってご参加頂きたくお願い申し上げます。

そして5月25日、武蔵野大学のボランティア組織「コネクト」が、日本地区初の単一大学ベースのサークルK（サークルK武蔵野大学）として設立されました。コネクトは私が同大学の客員教授として教鞭を取っていた時の教え子が中心になって作られた組織で、既にキワニスの行事にも参加しています。1月の座間アメリカンハイスクー

ルにおける日本初キークラブ・チャーター・セレモニーを皮切りに、子ども料理教室、キワニスドールをつくる会などで、参加者の平均年齢引き下げに大きく貢献しました。5月27日のファミリーデーでは、司会を担当した女性をはじめ3人のメンバーが参加し、会員との交流を通じて様々なコラボレーションの企画も芽生えています。

キークラブに加えてサークルKが設立され、前回のレポートで提唱した「東京クラブのSLP元年」のスローガンに相応しい展開になってきたのは喜ばしい限りです。

とは言え、「元年」とは裏返せば始まったばかりということに他なりません。2014年のサークルK芦屋設立を嚆矢とする日本地区のSLP活動は、武蔵野大学で3団体になりましたが、9000団体を超える全世界のSLP活動に比べるとまだまだ幼年期です。しかし東北大震災以来高まっている若者のボランティア活動への関心を考えれば、今後日本地区の活動の大きな柱として育っていくことが期待できるでしょう。

東北と言えば、最近仙台を舞台に江戸時代の助け合い精神を描いた磯田道史さんの名著を原作とする映画「殿、利息でござる」を鑑賞し、ボランティア活動の原点に触れることができました。6月に仙台クラブが45周年に合わせて開催する震災5年の報告会を心待ちにしている今日この頃です。

(吉國眞一会長)



ASPAC 台中大会に参加して 2016.3.10-12

大会前日の3月10日の夕刻桃園空港に到着し、通関を済ませて外に出た。そこで、私の名前が書かれたボードを持った桃園キワニスクラブの若い女性会員が出迎えてくれた。互いに自己紹介をかわした後、新幹線桃園駅行きのシャトルバスの切符を頂戴し、乗り場まで案内していただいた。VIPではない私にとっては台湾に一步を印した途端の嬉しいサプライズだった。

翌日は早朝から開会式までの間、台中から遠くない台湾有数の景勝地である日月潭への無料エクスカージョンが計画されていたが、雨天のため台中市内観光に変更となった。



最初に台中キワニスクラブ本部へ案内された。市の中心部の高層ビルの一角に100人以上の収容可能な設備の整った会議室と会長室、前会長室、事務局長室、財務委員長室等の多数の個室を擁した事務局が入居していた。台北のキワニスクラブはさらに広大な本部に入居しているのかなど想像を膨らませながら、台湾におけるキワニスの存在の大きさを実感した。

午後2時からの開会式では賑やかな出し物（パフォーマンス）が次々に繰り出された後、主催者、来賓の挨拶が延々と続きそろそろ式も終わりに近づいたと思われる頃、突然、蔡英文総統エレクト（5月20日就任）が会場に駆け付けたことが紹介された。彼女は登壇し、女性初の総統の地位を勝ち取った人とは思えない物静かな態度で中国語と英語で挨拶した。聴衆からは割れんばかりの拍手喝采がおこり、鳴り止むのに時間を要した。まさに、本大会のハイライトであり、サプライズであった。



大会の会場は私立高校に併設された立派な国際会議場で、同じ建物の中に千数百人が着席して会食ができるホールを有していた。このホールにおいて、大会初日のギャラデイナー、二日目の昼食および打ち上げ晩餐会のASPACナイトがいずれも千人以上の参加者が着席して中華フルコースで催された。人で溢れた大ホールの多数のテーブルへ手際よく料理を運ぶウェイター達の腕前には感心した。

ASPACナイト恒例の各地区のパフォーマンスコンテストには、日本地区は全員で高松クラブ発案の出し物に参加した。ぶっつけ本番というわけにもいかないので、総会終了後の4時半から全員で大ホールの舞台を使って練習する予定であった。ところが4時半には80名を上回る参加者のうち半数以上が行方不明。どうなることかと心配したが、晩餐会直前に全員集合してリハーサルを行うことができた。

いざ本番では、舞台脇の大きなスクリーンに瀬戸内海各地の風光明媚な映像が映し出されるなか、我々は三色の半被を着て半被の色ごとに3組に別れ、「瀬戸の花嫁」の歌を歌いながら、舞台下のリーダーの腕の振りに合わせて桜の小枝を左右に振るというシンプルなパフォーマンスを披露した。

美しい映像が印象に残ったためか、整然としたパフォーマンスが評価されたのか、日本地区は2位となり、合わせて最多参加者賞も頂戴した。嬉しいハッピーングであった。

ほとんどの時間を会議場と周辺の小さなコンビニ以外何もないホテルで過ごした私にとってのASPAC大会初参加であったが、嬉しいサプライズに恵まれて気分よく帰国の途に着くことができた。

(林 昭彦会員)

「あれから5年…三陸の旅」に参加して 2016.3.13-14

春とはいえまだ冬の寒さが残る一ノ関駅（岩手県）に総勢22名が集めたのは3月13日（日）のお昼過ぎでした。

私たちが最初に訪れたのは、5年前の東日本大震災で市街地が壊滅した陸前高田市。市の中心部に入るとまず目についたのは大きな盛り土の山と海岸沿いに2km弱続く防潮堤。ビルの4階建てまでの高さに整地されるということで、きれいに舗装された道路の両側は土の壁でした。震災で4階まで津波に呑み込まれたというアパートが震災遺跡として残されるとのこと。商店街や住宅はまだできておらず、想像を超えた市街地の様子に言葉もありませんでした。



バスが山の中腹にある「気仙大工左官伝承館」に着くと、案内役の女性の方から震災当日の伝承館と山から見た湾内の様子について話がありました。立っていることのできないほどの揺れの中でも気仙大工が建てた伝承館はほぼ無傷だったこと、さすが日本四大名工の一つと言われる気仙大工の技でした。一方、海では台風などの高潮では全く動かない湾内の養殖いかだが津波前の引き潮で沖に引きずり出されたとのこと。また、海の色もかつて見たこともないような茶色に変化したそうです。5年後の穏やかな海の景色からは想像できない震災の激しさが伝わってきました。次は、同行した藪内先生（東京藝大教授）の案内で「普門寺」へ。熊谷住職から、震災後、延べ400体もの身元不明の遺骨を預かり、百か日法要のニュースをきっかけに、全国から仏像や供物が送られてきたとの話を伺いました。藪内先生が寄贈された仏様も震災後新しく作られた仏間の中心に安置されていました。個人的な話になり恐縮ですが、震災後約2か月の間多くのボランティアがこの普門寺を拠点として活動されたそうです。そのボランティアの出身地が私の故郷の福井の人たちだったと伺い、普門寺が曹洞宗（大本山は福井の

永平寺）のお寺ということはあると思いますが、ご縁を感じるとともに、震災後何のお役にも立てていない自分が恥ずかしい気持ちになりました。

再びバスで市街地に戻り、車窓から「奇跡の一本松」、映画になった「佐藤直志さん宅」等を回った後、宿泊先である「箱根山テラス」に到着しました。すでに地元の皆さんは着いておられ、夜の懇談会は大いに盛り上がりました。佐藤直志さんは、ドキュメンタリー映画「先祖になる」（池谷薫監督）の主人公になられた木こりさん。穏やかな笑顔でユーモアもたっぷりな方。83歳になっておられるのに大変お元気で、握手をさせていただいたところ掌の分厚さと握力の強さに2度びっくり。何か励まし

の言葉を申し上げねばなどと考えていた自分が浅はかで、むしろたくさんの方の元気と生きるエネルギーをいただいた次第。菅野剛さんは麴の専門家であり佐藤さんのマネージャー的な存在。村上富夫さんは製材所の社長さん。津波に流された松の被災木を加工して作った立派な表札材を全員がプレゼントされ、何よりの記念品と皆で感激しました。また、私的な話になりますが、義兄が震災後、手作りチェロの部材（魂柱）を求めて陸前高田市を訪問し、地元の方から偶然紹介されたのが村上さん。松の被災木から作ったパーツをチェロに埋め込んで完成（神奈川県でのNHKニュースで放映されました）。村上さんも覚えてくださり、これまた不思議なご縁を感じた次第です。お礼に会員の佐々木信行さんから3人の方にそれぞれ歌を詠んでお返ししたところ、とても喜んでいただけました。

14日（月）は気仙沼市に移動。「舞根（もうね）森里海洋研究所と牡蠣養殖場」を訪問。「森は海の恋人」の合言葉で知られる畠山重篤さんの話を伺いました。畠山さんは、牡蠣の養殖業者であると同時に、日本エッセイストクラブ賞など多数の賞を受賞しておられる文人でもあります。また、縦割りの大学の専門学科を超えた幅の広い活動が評価され、京都大学フィールド科学教育研究セ



ンター社会連携教授も務めておられる素晴らしい方です。「豊かな海には、豊かな森が必要」、「震災後の牡蠣養殖を支えてくれたのは、フランスのルイ・ヴィトン（過去の東北の支援に対する恩返し）」、「牡蠣を育てるにはフルボ酸（古母さんと覚えよう）が大切」など、幅広くかつ専門的な内容をわかりやすく面白く説明して下さったのには一同感激。説明後の、取れたて生牡蠣の味はこれまた最高でした。

続いて、「気仙沼向洋高校」を訪問。津波の被害で今もプレハブでの学校生活。校長先生から資材高騰の波が



新校舎建設にも影響を与えているとの説明がありました。また、東京キワニスクラブの寄付（3年に亘り、水産7校に計1,566万円）が部活動等に役立っているとのお話も伺えました。印象深かったのは、被災した際、学校にいた先生・生徒はみなさん無事避難できたとのこと。ただ、学校（校舎）に残った数名の先生方は、当初3階なら大丈夫と思っていたものの、どんどん水嵩が上がり、4階までパソコンや書類をもって移動したが、ここも危なくなり最後は屋上へ。それでも足元まで水が来るので、水杯ならぬ最後の一服（煙草）を吸って覚悟を決めた由です。当時のニュース映像を思い浮かべ、皆さんご無事で本当に良かったと涙が出そうになりました。

2日間という短い日程でしたが、多くの素晴らしい地元の皆さんにお目にかかり、貴重な体験談等を伺うことができたことで、密度の濃いとでも有意義な三陸の旅となりました。これも、旅行委員の面々と、地元の皆さん・藪内先生など多くの方々と結ばれた“絆”のお蔭と心から感謝申し上げる次第です。金銭的な援助はもちろん大切ですが、それ以上に被災の事実を風化させることなく、これからの復興に繋げていくことが大切だと感じました。

なお、本企画に当たり、2月19日（金）には映画鑑賞を含む予習会、4月15日（金）には気仙沼から牡蠣を取り寄せての反省会が行われました。

（山下朗裕会員）

第1回かんたん「子ども料理教室」概要 2016. 3. 31

- 日時： 春休み中の3月31日(木)3～5時
 場所： 「としまえん」内の休業中レストラン「華蘭」
 （西武グループのご協力を頂きました）
 （券を提供して頂き、子ども達は2～3時迄乗り物で遊びました）
 メニュー： 豚肉生姜焼き丼・豚汁・サラダ・飲み物
 （2名のコックさんが指導）
 参加者： 孤食・養護施設の子ども達を中心に20名余
 （予約制）
 会員： 14名出席
 その他： 子ども達に東京キワニスクラブ特製のエプロンを提供しました

（事業企画委員会）

かんたん「子ども料理教室」のお誘い



桜の花が満開のとしまえんで、ちょっと遊んだあとに、料理のお手伝いをして、みんなでおしゃべりしながら、おいしいご飯を食べましょう。



日時： 2016年3月31日(木) 14:00～17:00 〃〃〃
 場所： としまえん
 交通： 西武池袋線「豊島園」駅前
 都営地下鉄大江戸線「豊島園」駅A2出口徒歩2分
 集合： 13:50までに「としまえん」正門を入った入園ゲート前にお集まりください(受付は13:30～です)
 定員： ・子ども30名(原則として小学校高学年・中学生)
 ・必ず大人が引率してください
 ・入園手続のため、事前に①参加者名(子ども、引率者) ②引率者の携帯番号を下記までメールでご連絡ください
tokyokiwani@japankiwanis.or.jp

かんたん
雨天決行

・国内の賑い物を2つ選んで
乗ることが出来ます
・15:00までにレストラン「華蘭」に集合してください

当日のメニュー

豚肉生姜焼き丼



豚汁



サラダ



ケロン茶・カルピス・オレンジジュース





お手伝いのごときに使用したエプロンをプレゼントします

キワニスクラブとは？

世界三大国際奉仕団体の一つとして1915年に米国で設立され、未来を担う子ども達のための活動をしています。「キワニス」は、テトロイト周辺の先住民の言葉「皆一緒に集まる(NUN-Kee-Wan-is)」に由来しています。

主催： 一般社団法人東京キワニスクラブ
 協賛： 株式会社豊島園



お問い合わせ：東京キワニスクラブ ☎03-5256-4567
 鈴木祐二 ☎090-7852-5541

“厨房も亦楽しからずや” 2016. 3. 31

今年の桜はかなり長持ちした。お蔭でいつになく多くの場所で、異なった趣の桜を楽しむことができた。その中でもっとも印象に残ったのは「豊島園」のそれである。

そもそも豊島園に行ったのが記憶にないほど大昔のことゆえ、電車に乗ったときから遠足気分でウキウキしていた。昼過ぎに着いたのだが、ほぼ満開の桜の下、ゲート周辺は子ども達で溢れていた。

今日はわが東京キワニスクラブ初の「子ども料理教室」の日。僕たちは既に「子ども食堂」を2回開いてそれなりの経験を積んでいたのだから、「キッチン」も大差ないだろうと余裕しゃくしゃく。だが、定刻になってもシェフはじめわれわれ大人たちは勢揃いしているのに、肝心の子どもたちの出足は鈍い。

あとでわかったのだが、人気の乗り物はどれも長い時間待ちで、チケットを渡すのは食後にすべきだったと反省。

それでも20人あまりの子ども達が集まって、まずは今日の先生役を買って出てくれた園内中華レストランのシェフが簡単メニューを鮮やかに実演。そのあと5テーブルに分かれ、各班ひとりの子どもが実際にクッキングに挑戦。



家人の冷たい視線を気にしながらも、頑なに「男子厨房に入らず」の訓を死守している身としては、自分で作らなくてすみとばかり一安心。ただ、エプロン掛けは少々気恥ずしく、それを紛らわすために普段より(?)いささか饒舌であった(気がする)。

この日のひとつのサプライズは、以前の「子ども食堂」で僕が手品を教えたらしい子どもが同じテーブルになり「あっ!あの時のおじさんだ!」と言ってくれたこと。この子は高校一年生になっていて、中学二年生の弟を連れてきていた。この弟の豚を炒める手つきが見事で、聞け



ば家では毎日料理番を務めているとのこと。さらに、その姉は料理前の手の洗い方が素晴らしく、たずねてみたら池袋の回転寿司店でのアルバイト歴が2年、プロ並みの手洗いもなるほどと思わず納得。この姉弟の息の合ったクッキングの恩恵に浴し、僕たちはご飯と飲み物などの「お運びさん」で済み、実に嬉しい午餐会であった。

この子達の家庭にも複雑な事情があって、いわゆる「家庭の団欒」の機会が乏しい筈なのに、なんと明るくたくましく育っているのだろう。

よく考えてみると、本当に「団欒」がなく、話し合う友達もいず、暗い子なら「子ども食堂」や「子ども料理教室」には来ない、いや来られないのではないかと。しかし、心の底から笑って、食べたりしゃべったりすることが少ない子ども達はやっぱり増えているように思う。実際、一生懸命にしかも彼らとおなじ目線ではなしかけているうちに、はじめは警戒的でいささか身構えていてもだんだん打ち解けてくるものだ。

日本の子ども達は、“not hungry, but alone”と言われるが、「よそでは賑やか、家では孤独」という大人も多いのではないだろうか。そうであるなら、僕たちの果たす役割は大きい筈だ。“ドローン”ではなく“アローン”の監視というべきか。

人気の朝ドラ“とと姉ちゃん”で、どんなことがあっても一日一度は家族揃って食卓を共にするのを守っている話があるが、いまの時代は両親揃った家庭でも無理である。かくして、「団欒」なる言葉も死語にちかいはず。

いつものことながら、かりそめの“善行”とは知りつつも「子どもクッキング」の打ち上げ会は大いに盛り上がり、昼間飲めなかった分をカバーして余りある痛飲会であった。

「家では孤独、外では団欒」とつぶやきつつ、月に映える夜桜を見ながら家路についた。

(佐々木信行監事)

児童養護施設卒園進学者への奨学金制度スタート 2016.4.1

児童養護施設は18歳（高3修了）で退所しなければなりません。

ストックは無く、その日から家賃・電気・ガス・水道代等々すべての負担が掛かって来ます。

ですから進学は至難の業なのです。

大学進学率10.3%（一般53.2%） 含短大・専修学校52.6%（同76.9%） 大学中退率（東京都）37%（同3%）

また、日本学生支援機構等の奨学金を確保したとしても、それは後々500万円程度の借金を背負って社会人生活に入る事を意味します。

そこで当クラブではこの4月から児童養護施設からの大学・短大・専修学校への進学者向けに3ヵ月毎10万円（最長4年間）の奨学金（生活サポート）制度をスタート致しました。

第1回の奨学生松野花歩さん（社会福祉法人窓愛園出身）は社会福祉士・保育士の資格を取って、将来児童養護施設で働く事を目指し、寮などの優遇措置の有る萩市の至誠館大学に進みました。

荒木なぎさKファミリー委員長はLINEでコミュニケー

ションを取りMentor機能を発揮して居ます。

窓愛園とも協力し、少しでも松野さんを支えて行ければと思います。

年に2回は当クラブの集まりに参加する事にもなって居ます。

例会や各種イベントの際に専用募金箱が設置されていますので皆様のご協力をお願い致します。

（事業企画委員会）



キワニスドールをつくる会報告

ボランティア活動の広がりを受け、キワニスドールづくりに対する関心が増えており、2~5月も、ジャックス、MSD、JCB等の企業のほか、すでに授業の一環に組み込まれている田園調布学園にも、キワニス会員やボランティア活動に取り組む学生等が手分けして参加し、ドールづくりを指導、サポートした。特にJCBにおいては、本部でのドールづくりの様子が、主な支店にも同時放映され、関心の高さが窺えた。



なお、ドールづくりに対し最近寄せられた参加者の感想は、いずれもすこぶる好意的なものが多い。特徴的なものをまとめると概要次の通りである。

①キワニス活動については、「全く知らなかった」とする人がほとんどだが、ドールづくりについて、「オーストラリアで始まった活動が世界中に広がっていることは素敵なことであり、もっと沢山の人がこの活動を広めていくことが大切」、「お金の寄付というような奉仕活動とは異なり、人の手で、心を込めてつくった人形をプレゼントすることは素晴らしい」との評価。

②ドールづくりの目的等については、「入院している子ども達は、想像をはるかに超える不安と闘っており、この人形が、その子ども達に与える勇気や希望は計り知れないものがある。本当に素晴らしいことであり、自分自身も貴重な経験をすることができとても嬉しかった」との声が圧倒的。

③実際の作業については、「作る前は、ただ綿を詰めるだけだから簡単と思っていたが、手、足、頭、胴体に均等に綿を分けて詰めるのが、とても大変だった」（たかが綿詰め、されど綿詰め）。

④会員に対しては、「クラブの会員の方々が優しく丁寧に教えて下さり、感動した」が、「クラブの方々の優しい思いが病気と闘っている子ども達にきちんと届いてい

るようで、とても幸せな気持ちになった。「これから先、自分も積極的にこの“幸せの連鎖”をつなげるお手伝いをさせていただきたいと思った」との声も。

⑤ピンバッジについて、高校生が、「学校の制服につけていることで、誇らしく感じる」とし、また MSD では、

5 回目の参加で黄緑色のピンバッジを手にした社員の方が、「できるだけ多くの社員にドールづくりを広めたい」との前向きな気持ちを披歴、ドールづくりのすそ野が徐々に広がっていくことを実感した。

(片山仁志ボランティア活動委員長)

キワニスドールをつくる会に参加して 2016. 2. 20

2月20日、恵比寿のジャックスで開催されました「キワニスドールをつくる会」に初めて参加しました。東京キワニスクラブのメンバー5名と指導員2名のほか、約70名の社員及び家族の方々が来られました。今回私たちがチャレンジしたのは、ドールづくりの全工程(型取り、裁断、ミシン縫製、裏返し、アイロン掛け、綿詰め、口綴じ等)のうち、最後の2工程である綿詰めと口綴じでした。



まず自分の両手と作業機を入念に消毒したあと、配布された綿を5つの束に分けます。次に各々の束を更に細かく分けて(50ピース前後)いきます。これが終了すると、割り箸を使ってドールの両足、両手、頭部、胴体の順に左右のバランスや頭部の傾斜などに注意しながら綿詰めを進めていきます。最後の口綴じでは、老眼鏡を持参していかなかったため、糸通しなどで苦労しましたが、指導員の方々の支援もあり何とか時間内に完成させることができました。

今回の工程のポイントとしては、

- 1 作業台を有効に活用して、綿の分け方はできるだけ細かく均等に行う。
- 2 最初に行う足の綿詰めは全体のバランスを考え、詰め込み過ぎないように注意する。

の2点を挙げることができます。ポイントさえ押さえれば決して難しい作業ではありませんので、最近入会されてまだドールづくりを体験されていない方々も、一度参加されてみてはいかがでしょうか。

(新木資明会員)

慶應義塾大学サイバー防犯研究会の田園調布学園のワークショップに参加して 2016. 2. 24

2016年2月24日午後4時から田園調布学園で開催された慶應義塾大学サイバー防犯研究会によるワークショップに、東京キワニスから事業企画委員長の鈴木さん、広畑さんと共にオブザーバー参加しました。慶應義塾大学サイバー防犯研究会は湘南キャンパスにある総合政策学部のサークルであり、昨年の東京キワニス青少年教育賞の優秀賞を受賞しています。警察庁から出向している岡部正勝教授の指導の下、継続的にネット、SNS等を利用した犯罪の防止活動を行っています。今回は約40名の女子高生を対象に大学生4名が「ネットワークは怖い?」と言うテーマで3つのプレゼンを行った後、3~4名の小グループに分かれそれぞれ一つのテーマを選び議論しました。テーマは「個人情報の流出(ユーチューブに動画をアップロードした結果個人情報が拡散)」、「SNSによる仮想恋愛のリスク(三鷹の女子高生殺人事件をヒント)」、「Lineによるイジメ」と実際にあった事件や日常起

こりうるものであり、それについて各グループで何が問題で、どうすれば防げるかについて議論し発表しました。田園調布学園では校内での携帯電話使用は禁止されるとのことですが、ほぼ全員が所持しているとのことで、身近な問題であることもあり活発な議論が行われました。発表後サークルメンバーが改めて問題を解説し、防犯についての啓蒙を行いました。サイバー犯罪は最近様々な形態で発生していますが、親の目が届きにくいスマートフォンを使った事件も増えており、持たせた時からリスクをきちんと理解して犯罪に巻き込まれないように教育することが大切であると思いました。それを大学生が世代の近い高校生に啓発していることに価値があると思いました。田園調布学園の女子高生は全員きちんとした服装と髪型で議論も整然としており、将来、孫を通わせたいと思わせる学校でした。

(和氣秀樹青少年教育委員会副委員長)

靖國神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝に参加して 2016.4.5

今年の桜の開花は例年より早く、桜の花がまだ残る4月5日、吉國会長を始め20数名の会員の皆様とともに靖國神社昇殿参拝に参加した。私としては3度目の昇殿参拝であった。九段の急な坂道を登り、正面の大鳥居、神門をくぐり、右手の慰霊の泉に黙礼しながら、厳かな気持ちで本殿受付待合所に進む。本殿に上がると気持ちが一層引き締まるのを感じる。過去の戦争、争いにおいて無念にも命を落とした多くの先人のことを思い、胸の痛みを覚える。私の叔父も太平洋戦争で戦死した。本殿に案内され、物音ひとつしない静寂の中で、戦陣、戦禍で命を落とした多くの御霊に心から哀悼の意を表した。そこは恒久の平和を誓い、祈る時空であった。一瞬時が止まった。遠くに一般参拝者の声が聞こえる。改めて平和であることの有難さ、大切さを思い、感謝し、胸の熱くなるのを感じる。昇殿参拝後、桜の標準木を見る。毎年、靖國神社から日本全国に桜の開花情報が発信される

が、それは平和であることに対する感謝の気持ちの発信と重なってみえる。「慰霊の泉」に神社の神職が同行され、感謝の意を表された。これからも機会を作って「慰霊の泉」の清掃に参加しようと思う。私は時々、中学校、高等学校で出張授業を行っているが、将来を担う生徒たちにも平和のあり難さ、大切さを伝えたいと思う。「平和」という尊い理念を背中に背負い、九段坂を下りた。

(古橋和好会員)



ファミリーデーの報告 2016.5.27

5月27日(金)「第66回ファミリーデー」が大手町の銀行倶楽部で開かれ、68名が出席されました。サークルK武蔵野大学の榎原舞さんの司会のもと、吉國会長の開会挨拶、増田副会長の乾杯で始まり、100周年記念特別章・ヒクソンフェローの贈呈式が続いて行われました。受賞者を代

表して廣瀬駒雄会員が「記念特別章」を北里国際理事より受け取りました。

1時間の歓談後、中村好江わくわくHOT 5スペシャルの演奏会があり、ニューオールリンズのフェスティバルのように全員立ち上がり手拍子を打って、盛り上がりました。中村さんは昨年12月の第2回キワニス「子ども食堂」の際にも、トランペットの演奏をして、子ども達を喜ばせてくれました。

恒例の棚澤副会長の福引をお楽しみいただき、お開きとなりました。

なお、寄付・福引代等は総額367,000円となり、ご協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

私事になって恐縮ですが、中村好江わくわくHOT 5スペシャルとは、毎月名古屋で定例のライブがあり、私が愛知県出身ということで、毎回聴きに行っている関係で、紹介しました。予想以上の盛り上がりで、ニューオールリンズで毎年4月に行われるフェスティバ



ルそっくりでした。1961年のジャズ・メッセンジャーズの初来日をサンケイホールで聴き、すっかりジャズにはまりました。

私がニューヨークに行ったのが前の東京オリンピックの前年の1963年でした。アメリカ人の建築設計家のスポンサーの招きで、取りにくいヴィザをとり、当時ヴィレッジの「ファイブスポット」に家主のような格好でいつもいたセロニアス・モンクを聴きに行ったものです。マンハッタンに住む日本人がたった900人の頃でした。銀行に円を持っていくと、1ドル=400円の時代です。

ジャパン倶楽部に行くと、トロントの常任指揮者をしてきた小澤征爾さんがクラブ内の「吉兆」の小あがり



食べたくて、ニューヨークに来るんだが、君は何でここにいるんだと聞かれたのが懐かしく思い出されます。

(鶴田日夫事業企画委員)

初めてファミリーデーに出席して

本年4月に入会させていただきました花井喜則と申します。先輩会員様のお勧めもありキワニスの集まりには都合が許す限り参加させていただいておりましたが、このファミリーデーへの参加申込みはぎりぎりの前日でした。というのもファミリーという言葉が文字通り解釈して配偶者もしくは家族同伴で参加するのが原則だと勝手に思い込んでおり妻の参加が前日まで決定できなかったという事情によるものです。実際に出席してみると久しぶりにお目にかかるのを楽しみにしていた吉國令夫人が伊勢志摩サミット同時通訳のお仕事で欠席されたのを始めとしてお一人でご参加の方も多く意外だったというのが本音でした。

会の方は吉國会長のご挨拶で始まりましたが、サークルK・エリミネイトプロジェクトとか新米の私にはまだまだなじみのないキワニス語も多く自分自身の勉強不足



を思い知らされる羽目に陥りました。その後、北里国際理事より国際キワニス100周年記念特別章等が多くの皆様に贈呈されキワニスの歴史を感じさせる一幕でした。

乾杯の後のビュッフェのお食事はいつもの例会に比べると格段に美味しく、宴たけなわの6:30より始まった中村好江さん以下が奏でるディキシーランドジャズの懐かしいナンバーも本当に楽しむことができ先輩会員とも談笑させていただいた楽しい一夜となりました。

ここまでの完璧なセットアップはご準備まことに大変だったと存じますが、関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

(花井喜則会員)



2016年2月～5月までの活動

2016 年 2 月	2	火曜会
	5	第2221回例会(講師:上方仁氏)
	5	明治安田生命 キワニスドールをつくる会
	7	第48回文楽を楽しむ会
	9	火曜会
	9	札幌クラブ雪まつり例会
	12	第80回日本酒を楽しむ会
	14	第48回文楽を楽しむ会
	15	第73回国際懇話会(講師:羽田浩二氏)
	16	火曜会
	18	第24回ワインを楽しむ会
	19	第2222回例会(講師:鏡川陽介会員)
	19	「あれから5年・・・三陸の旅」事前学習(予習)
	20	ジャックス キワニスドールをつくる会
	21	第48回文楽を楽しむ会
	23	火曜会
	23	第100回囲碁愛好会
	24	静嘉堂文庫美術館見学会
24	慶應義塾大学サイバー防犯ボランティア研究会による講演会	
25	宝塚観劇会宙組公演	
2016 年 3 月	1	火曜会
	4	第2223回例会(講師:坂本博之氏)
	8	火曜会
	10	ギャップジャパン キワニスドールをつくる
	10-12	第41回ASPAC台中大会
	13	小児がんの子どものためのチャリティコンサート
	13-14	あれから5年・・・被災地を巡る、三陸の旅
	15	火曜会
	18	第2224回例会(講師:後藤奈美氏)
	19	松江クラブ設立10周年記念式典及び祝賀会
	22	火曜会
	22	MSD(株)社会貢献プログラムドールをつくる会
	22	第101回囲碁愛好会
29	火曜会	
31	かんたん子ども料理教室(キワニスワンデー)	

2016 年 4 月	1	第2225回例会(講師:出口治朗氏)
	5	靖国神社「慰霊の泉」献納記念昇殿参拝
	5	火曜会
	8	福岡クラブ設立40周年記念式典・祝賀会
	12	火曜会
	14	第81回日本酒を楽しむ会
	15	第2226回例会(講師:杉浦実氏)
	19	火曜会
	19	千代田クラブ講演会
	20	春季ゴルフ大会
	21	宝塚観劇会雪組公演
	22	花房晴美ピアノコンサート
	23	靖国神社春季例大祭
	24	神韻日本ツアー2016
26	火曜会	
26	第102回囲碁愛好会	
2016 年 5 月	10	火曜会
	10	第103回囲碁愛好会
	10	第74回国際懇話会(講師:本村眞澄氏)
	12	第82回日本酒を楽しむ会
	12	第7回美術を楽しむ会(アートフェア2016)
	15	第49回文楽を楽しむ会
	17	火曜会
	17	JCB社会貢献プログラムドールをつくる会
	19	第25回ワインを楽しむ会
	20	第2227回例会(講師:林本久美子氏)
	22	大相撲夏場所観戦会
24	火曜会	
27	第2228回例会(第66回ファミリーデー)	
28	田園調布学園ドールをつくる会(土曜プログラム)	
31	火曜会	

2016年6月～9月 今後の予定

2016 年 6 月	3	第2229回例会(講師:ミッシェル・シマー氏)
	7	火曜会
	8	エリミネイト・プロジェクト支援第15弾コンサート
	9	第83回日本酒を楽しむ会
	10	東日本大震災5周年報告&仙台クラブ45周年記念式典・祝賀会
	14	火曜会
	14	千代田クラブチャリティコンサート
	16	ウエルスファーゴ証券ドールをつくる会
	16	宝塚観劇会(雪組公演)
	17	第2230回例会(澤田陽介氏)
	21	火曜会
	23-26	第101回国際キワニス年次総会トロント大会
	28	火曜会
	28	第104回囲碁愛好会
2016 年 7 月	1	第2231回例会
	5	火曜会
	10	キワニスドールフェスティバル(パナソ)
	12	火曜会
	14	第84回日本酒を楽しむ会
	15	第2232回例会(講師:内田伸子氏)
	15	第75回国際懇話会(講師:赤星 康氏)
	19	火曜会
	20	MSD(株)社会貢献プログラムドールをつくる会
	21	宝塚観劇会(花組公演)
	23	開東閣で楽しむ室内楽の調べ
	24	京都クラブ祇園祭(後祭)例会
	26	火曜会
	26	第105回囲碁愛好会
29	第2233回例会(講師:川村百合氏)	
29	サマーパーティ	

2016 年 8 月	2	火曜会
	5	第2234回例会
	9	火曜会
	19	第2235回例会(講師:粟津礼子氏)
	23	火曜会
	23	第106回囲碁愛好会
2016 年 9 月	30	火曜会
	1	宝塚観劇会(月組公演)
	2	第2236回例会(第50回キワニス社会公益賞表彰式)
	6	火曜会
	8	第85回日本酒を楽しむ会
	9	第40回国際キワニス日本地区年次総会西宮大会
	10	青少年教育賞表彰式&交流会
	13	火曜会
	16	第2237回例会
	20	火曜会
	27	火曜会
27	第107回囲碁愛好会	
30	第2238回例会 臨時総会&卓話	

■平成28年5月31日現在 総会員数233名

■平成28年2月1日から5月31日までに入会された方 4名

武岡志郎、高綱直良、花井喜則、天賀谷茂

キワニスドールとは

身長約 40cm で体重約 50g、とても素朴な形で、目も鼻も口もありません。ただ一つ身に付けているのは、キワニスマークの小さなラベルだけです。

しかし、このちょっと風変わりな、ノッペラボウの小さな人形が普通の玩具の人形とは違った方法で、全世界の病気の子どもたちに大きな力を与えています。キワニスドールは、病気の子どもたちと仲良しになり、見守ることが使命です。

白い木綿生地にポリエステル綿を詰めただけのキワニスドール。ノッペラボウなのは、使う人が顔を描いたり洋服を描いたりすることができるようにしているためです。また、お医者さんや看護師さんが、治療の説明のために、人形に絵を描くこともできます。さまざまに描かれた人形は、病気のその子だけの人形になります。

キワニスドールは、メルボルンのナナワディング・キワニスクラブで、1988年に初めて作られました。メルボルンからオーストラリア全域で広がり、さらに1994年に北欧にも伝播しました。日本地区では2001年11月から取り組み始めました。現在では全世界のキワニスクラブでドールを制作して病院などに寄贈するという活動を行っております。

2009年から毎年、キワニスドールの利用実例などについての情報共有をはかり、作る側と利用する側双方の課題を議論し合う場として、キワニスドール・シンポジウムを開催しています。

キワニスドール (Kiwaniis Doll) を平成 18 年 7 月 14 日に、商標登録し、平成 28 年 4 月 19 日に更新いたしました。

エリミネイト・プロジェクトについて (破傷風から世界の母と子ども達を救おう)

国際キワニスとユニセフの協力で世界から妊産婦・新生児破傷風を撲滅します

2011年7月のジュネーブでの第96回国際キワニス年次総会に於いて、国際キワニスは、世界から妊産婦・新生児破傷風を撲滅するために募金活動を行うというエリミネイト・プロジェクトをスタートさせ、2015年12月までに誓約込みで1億1千万ドルの目標を達成しました。この世界的なキャンペーン活動は、キワニスの国際ボランティアネットワークとユニセフの医療ネットワークの協力により進める歴史的なプロジェクトです。

エリミネイト・プロジェクトの基本データは次の通りです。

- 妊産婦・新生児破傷風は、スタート時は、9分に1人、毎日160人の赤ちゃんの命を奪っていたが、皆様のご支援のお蔭で、奪われる命が2015年9月現在11分に1人、毎日135人に減少した。
- 妊産婦・新生児破傷風は、1回60セント、計3回1.8米ドル(約180円)のワクチン注射で母と将来の赤



ちゃんの命を守ることが出来る。

- エリミネイト・プロジェクトは、6,100万人のお母さんと赤ちゃんを助けることが出来る。

日本は破傷風撲滅の先駆者—誇りを持ってこの活動を推進しています

2015年6月のインディアナポリスでの100周年の国際年次総会で、成果を「お祝いする」ことができました。

東京キワニスクラブは、先に達成した100Kクラブに続き、モデルクラブの目標\$165,000も2015年5月20日に達成しました。

キワニスクラブとは

キワニスクラブは、“世界の子どもたちのために”を合言葉に奉仕活動を行う民間の世界的な団体です。1990年からは、特に幼い子どもたちのための奉仕活動に力を入れています。名称のキワニスは、デトロイト周辺に住んでいたアメリカ原住民の言葉“Nun-Keewanis”(みんな一緒に集まる)に由来します。

キワニスクラブは、1915年1月21日米国デトロイト市で生まれました。当初はアメリカとカナダで発展していましたが、1963年にはヨーロッパ3都市に広がり、現在世界の約85ヶ国、7,300のクラブ、約20万人の会員が国際キワニスを構成し、その本部は米国インディアナポリスにあります。

日本では、東京キワニスクラブが1964年1月24日、アジア太平洋地域で最初のクラブとして設立されました。次いで名古屋、大阪、広島、神戸、仙台、札幌、横浜、高松、福岡、京都、千葉、和歌山、新潟、泉州、埼玉、西宮、福山、熊本、静岡、金沢、松江、鹿児島、芦屋、福島、大分、千代田、長崎、宮崎、佐賀、秋田、大垣、福井の順に生まれ、現在33のクラブで会員は約1,900名で活動しています。東京キワニスクラブは、1967年2月27日社会奉仕団体として初めて、厚生大臣より社団法人の認可を受けました。2012年10月1日に一般社団法人に移行しました。

一般社団法人 東京キワニスクラブ 会長 吉國 眞一 〒101-0047 千代田区内神田2-3-2 米山ビル

Tel: 03-5256-4567 Fax: 03-5256-0080 e-mail: tokyokiwaniis@japankiwanis.or.jp URL: <http://www.japankiwanis.or.jp/tokyo>